

50th



日本原子力研究開発機構
理事長
松浦 祥次郎

高崎量子応用研究所設立 50周年を迎えて

高崎量子応用研究所は、量子ビームを横断的に利用して基礎から産業応用までの幅広い研究開発を進めることにより、我が国における量子ビーム応用研究の中核拠点としての役割を担ってきました。当研究所の前身である日本原子力研究所高崎研究所が昭和38年に設立されて以来、このたび50周年を迎えることとなり、これもひとえに関係する多くの皆様のご指導、ご鞭撻のたまものと厚くお礼申し上げます。

当研究所は、環境、エネルギー、先進医療、バイオ等の分野に貢献する研究開発を行い、さらなる可能性を切り拓くためにビームの発生技術・照射技術・解析技術の開発・高度化を同時に進めてきました。また、世界最先端のイオンビーム、電子線、ガンマ線などの量子ビーム照射施設等は、大学・公的研究機関・産業界に広く開かれた施設供用の運営を続けています。特に、これまでに培ってきた技術を活かして、福島第一原子力発電所事故収束と汚染した環境の修復・浄化に向けた取り組みなどにも力を注いでおります。

半世紀という長い歳月の間に、量子ビーム応用研究として放射線利用の研究開発のため、量子ビーム照射施設を安全に運営し、数々の業績を積み重ね、量子ビームの優れた機能を効果的に活用することで、多くの学術成果や国民生活に直結する成果をあげてきました。また、この50年間で当研究所が量子ビーム応用研究に果たしてきた役割は大きく、若い研究者や学生への教育と啓蒙にも大きな役割を果たしてきたと自負しております。引き続き安全かつ安定な運転、管理に心がけるとともに、社会のどのセクターよりも先に将来の課題を把握し、その対処への努力を怠らず、量子ビーム応用技術の研究開発と成果の社会還元に努めてまいります。

これからも工業・農業・医療その他、私たちの生活を取りまくあらゆる分野で、量子ビーム応用研究に関わる社会的ニーズは高まるものと信じて疑いません。設立50周年を迎えるにあたり、高崎量子応用研究所の職員が結束し、高い志、豊かな発想、強い意志のもと、身近な暮らしといのちに役立つ研究成果の創出を途絶えさせることなく、未来を切り拓き人類社会の福祉に貢献できるよう、より一層の発展を目指します。

設立50年の節目を新たな出発点として、国民から高崎量子応用研究所に期待される使命を心に刻み、役職員一同さらに努力することを肝に銘じる所存です。これからも皆様の変わらぬご支援、ご指導を心からお願い申し上げます。設立50周年のご挨拶とさせていただきます。